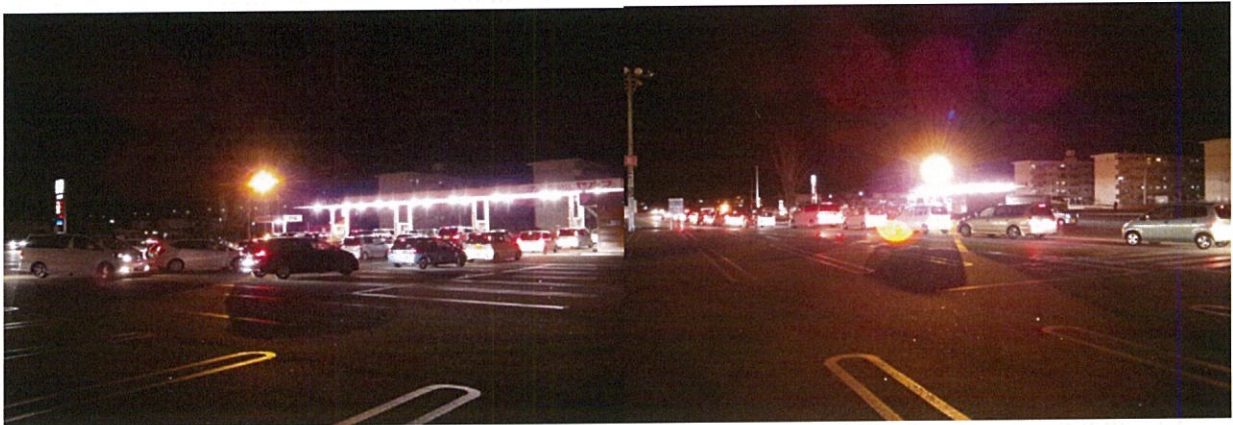


12月7日17:18 三陸沖地震発生。その時私は、夕方の清掃作業を研修生さん達と終えて送迎中でした。携帯電話の防災メールがけたたましく鳴り後部座席に乗っていた研修生さんが「地震だ!!」と告げた直後揺れを感じました。丁度、信号で停車する時であったため停車し、揺れが収まるのを待ちました。南相馬市は震度4とあとで知りました。車が左右に大きく揺さぶられるほどの揺れが1分ほど続きました。ラジオを付け、震源地を知ると同時に避難の必要性を考えなければならぬ事。後部座席に居る研修生さんを自宅に届けるべきなのかと同時に複数の事に答えを出さなくてはなりませんでした。幸い研修生さんの自宅は停車した信号の角であった為、自宅前に車を移動させてラジオを一緒に聞きました。研修生さんは自宅に家族がいる為家族と一緒に行動すると言って自宅に戻りました。自宅に入るのを確認した上で車を移動させました。この方の自宅は以前の震災時に津波による被害がなかった場所であったため自宅に帰しました。

車を落ち着いて停車出来る場所として近くの大型ショッピングモールまで移動し、ラジオを聞きました。その間にもサイレンが鳴り響き、防災放送が流れ「津波」危険性を訴えていました。ラジオも同様に「津波」危険性と避難勧告、津波到達時刻を知らせていました。わかぎからの安否確認の連絡が入ったのもこの頃ですが、事態の把握がまだ出来ない状況でした。また、携帯の通信状態が悪くなり、ビーンズやぴーなっつへの連絡が出来ない事態にもなっていました。ショッピングモールに併設されているガソリンスタンドにはみるみるうちに車が集まり、燃料を求める車の行列がドンドン出来ていきました。その異様な光景と鳴り続けるサイレンの音と周りの切迫感が「3・11」の震災の不安や恐怖心を思わせました。



実際には津波の高さは1m未満でありましたが、もしあの時と同じような事が再び起きていたらと本当にゾッとしました。19時過ぎにようやく津波警報が解除されました。翌週、ビーンズにて研修生さんや職員と話しました。送迎が終了している時間であった為殆どの方が避難せず、自宅で様子を見ている事が多かったです。津波への恐怖と同時に南相馬市という地理もあり、原発への不安もあったと聞きました。

震災の爪痕はまだまだ街にも人の心にも残っている事を改めて知りました。私自身、災害時の対応に不安をこの地でより強く感じる事が出来ました。緊急時の連絡方法だけでなく、移動や安全への備え。地理の理解と課題は多くあります。それらを1つ1つ確認していく事。有事に活用出来る為の日々の備えが本当に大切である事をこの地での災害で生活している方々から学び「生かして」行けるようにしたいと思います。